

## P-2-80

## 乳幼児の水分摂取機能発達に関する研究

## 第1報 発達の観点からの適切な食具の選択について

○石田 瞭, 大久保真衣, 細谷美穂\*, 川田敬弘\*, 白井裕子\*

(東歯大千葉病院・摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科, \*コンビ株式会社・プロダクトセンター商品開発室)

## 【目的】

乳幼児期は、離乳を通じて栄養のみならず水分摂取機能の獲得も重要な時期だが、その機能獲得過程をスプーン、コップ、ストローなど食具の使用状況からみた研究は少なく、明確な指針も確立されていないのが現状である。本研究では、既定の食具による乳児の水分摂取機能獲得過程を経時観察し、指標とすべき観察項目、また機能発達の点から適切な食具のあり方について検討を行った。

## 【対象と方法】

心身共に異常を認めない乳幼児のボランティア11名(男児8名、女児3名)を対象とした。観察開始時の月齢は平均8.3ヶ月(5~14ヶ月)であった。観察期間は平成20年6月から12月までの6ヶ月間で、ほぼ1ヶ月に1回の頻度で経時観察を行った。

既定の市販フィーディングスプーン(3種類:小さなものからA, B, C)、レンゲ、コップ、スパウトマグ、ストローの一式を、あらかじめ対象児自宅へ送付し、使用順や使用のタイミングの月齢を指定せずに水分摂取時に用いてもらった。ただし、表1のようなStepを8段階で明記し、クリアした日付を記録してもらい、関連するエピソードも記載してもらうことにより、水分摂取状況に関わる情報収集を行った。得られたデータをもとに、機能発達の点から適切な食具のあり方を検討した。

表1 観察項目

Step	観察項目
1	スプーンAで初期食を口唇捕捉できた
2	スプーンAで水分をすすり飲みできた

3	スプーンBで水分をすすり飲みできた
4	スプーンCで水分をすすり飲みできた
5	レンゲで水分をすすり飲みできた
6	介助下でコップの連続飲みができた
7	スパウトマグで飲めた
8	ストローで飲めた

## 【結果】

- ① はじめて児に水分摂取として与えた月齢は平均6.7ヶ月で、その時使用した食具は、スパウト55%(6名)、スプーン27%(3名)、ストロー18%(2名)であった。
- ② ストロー開始時期は平均8.5ヶ月(7~13ヶ月)であった。
- ③ スプーン、コップなどですすり飲みを習得した上でストローの使用を開始した児3名は、比較的早期にストロー摂取も習得できた。
- ④ 一方、すすり飲み不十分のままストローでの水分摂取が可能となった児8名は、その後コップによるすすり飲みを習得するまでには比較的長期間を要した。

## 【考察】

早期にストローで水分摂取を行わせるケースの背景としては、短期間で水分摂取可能となる、ストローマグでは特にこぼれる心配がなく介助負担が軽い、必要な時に手早く、かつ多量の水分摂取が可能との意見があり、主に保護者側の利便性により積極的に使用されているものと考えられた。このため、ストローによる水分摂取が可能となったケースでは、こぼした時の被害の大きさ、より介助を要するなどの理由により、スプーンあるいはコップからのすすり飲み機会が疎遠となり、結果的にすすり飲み機能獲得までの期間が長くなることが考えられた。

臨床経験上は、スプーン、コップなどによるすすり飲みを習得した上で、ストローを活用することが妥当であるが、本結果から、その裏付けを得ることができた。